

新世代ワークプレイス 研究センター

センター長
仲 隆介



21世紀は「知識」の時代とも言われており、激動化するビジネスシーンにおいて知識創造の根幹を担うオフィスの重要性については疑う余地の無いところである。このような時代の要請を受けて、今、新しい時代のオフィス像が求められている。

21世紀のオフィスは、経営、建築、環境、情報など、多種多様な分野の知識と技術を駆使しなければ構築できない「総合的な環境」になっている。本センターはこのような21世紀のオフィス研究のために様々な先進的オフィスについての調査・分析を進めるとともに、日本におけるオフィス関連研究分野のプラットフォームとして国内外での研究活動、国際交流・協力の推進に努めるほか、オフィスに関する最新の研究成果を社会に還元する活動を積極的に行っている。

プロジェクトの研究計画

1 NEOの活動方針

NEOでは3つの方針に基づいて活動を展開している。

Visionary オフィスの未来を提示

情報通信技術が目覚ましく進展する中で、新世代のオフィス、近未来オフィスのあり方やワークスタイルの変化に関して情報収集した上で、次の時代を予測し、時代に合ったオフィスのあり方を提示する。



ワークスタイルデザイン



プロセス・成果を資産化するツール



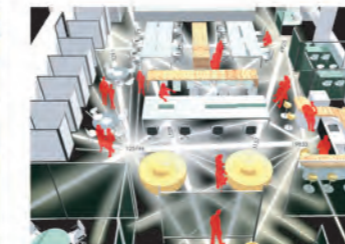
Web協同作業空間ツール



第3のワークプレイス



アクティビティを吸収する
パufferゾーン



情報共有ツール



NEOの活動概念

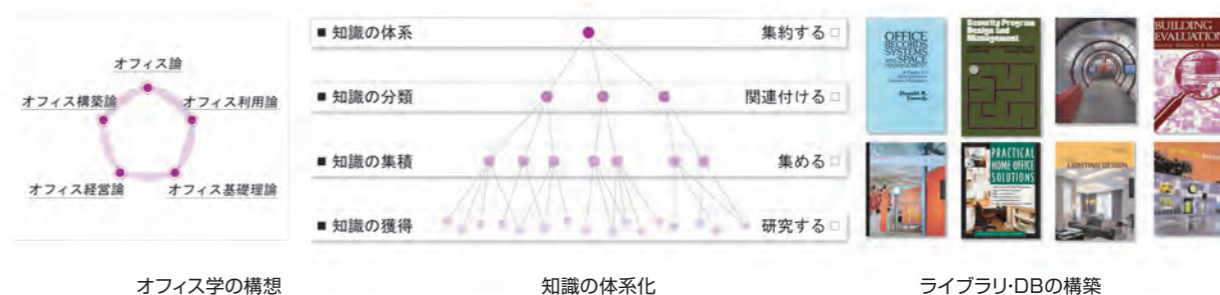
Practical 実践的な調査分析手法の開発

オフィスに関する企業活動・研究活動をサポートするために様々な手法の最新事例や実践的な情報収集と関連研究を行い、それらの具体的な効果の数値化や新たな調査分析手法等を提案する。



Interdisciplinary 学際的な研究プラットフォームの構築

オフィスに関する専門分野は多岐に渡り、多様な展開をしている。研究者・専門家の共通の基盤を構築するために、ワークプレイス研究の体系化と共通言語の確立を目指す。



2 活動内容

- 定例研究会(毎月)
- 分科会(月1回)
- 運営会議(年6回)
- 公開シンポジウム(毎年6月初旬予定)

プロジェクトに期待される成果 将来展望

- ・学際的なプラットフォームとしてコミュニケーションハブとなりオフィス研究の活性化に貢献
- ・次の時代を予測し、時代に適合したオフィスのあり方を提示することでオフィス環境構築の手助けを行う
- ・具体的な効果の数値化や新たな調査分析手法等を提案することでオフィスに関する企業活動・研究活動をサポートする
- ・オフィス研究の体系化・共通言語を確立することで、多岐に渡って展開するオフィス研究共通の基盤構築に貢献

PROJECT STAFF プロジェクトスタッフ

■ センター長 仲 隆介 (デザイン経営工学部門教授)

プロジェクト研究員

大谷 芳夫(デザイン学部門教授)
川北 真史(デザイン経営工学部門教授)
澁谷 雄(情報科学センター教授)
小山 恵美(デザイン経営工学部門准教授)

宮里 勉(デザイン経営工学部門教授)
松本 裕司(デザイン経営工学部門助教)
三村 充(デザイン経営工学部門助教)